

「子ども発達相談ブログ」システムの提案と評価

白井由希子[†] 糠野 亜紀^{††} 新谷 公朗^{††} 井上 明^{†††} 芳賀 博英[†]
金田 重郎[†]

[†] 同志社大学大学院・工学研究科・知識工学専攻, 〒610-0321 京田辺市多々羅都谷

^{††} 常磐会短期大学・幼児教育科, 〒547-0031 大阪市平野区平野南

^{†††} 甲南大学・情報教育研究センター, 〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区

E-mail: †shintani@tokiwakai.ac.jp

あらまし 近年, 幼児教育分野では, 知的発達に遅れはないものの, 保育に困難を伴う「気になる子」の問題がクローズアップされている。気になる子の保育には, 医学・心理学などの専門知識が必要となるが, 現場の保育者がそれらを十分に備えているとは言えない。この状況を解決するため, 専門知識を持つ相談員が定期的に園を回り, 子どもの様子を分析し, 発達を支援する巡回相談が開始された。しかし予算・要員数の限界から, 十分な巡回相談は行われていない。そこで, 本稿では, 巡回相談をサポートする「子ども発達相談ブログ」を提案する。本システムではインターネットを用いて巡回相談内容を共有でき, 巡回相談後も引き続き, 保育者と相談員が情報交換できる。結果として, 相談回数を増やしたのと同等の状況に近づけることができる。大阪府内の保育所でプロトタイプシステムによる社会実験を行った結果, システムの有効性を確認できた。

キーワード 巡回相談, 幼児教育, ブログ, 相談員, 子育て支援。

A Support System for Traveling Counseling: “Child Development Counseling Blog”

Yukiko SHIRAI[†], Aki KONO^{††}, Kimio SHINTANI^{††}, Akira INOUE^{†††}, Hirohide HAGATA[†],
and Shigeo KANEDA[†]

[†] The Graduate School of Engineering, Doshisha University, Kyoto 610-0321 Japan

^{††} Early Childhood Education, Tokiwakai College, Osaka 547-0031 Japan

^{†††} Education and Research Center for Information Science, Konan University, 658-8501 Japan

E-mail: †shintani@tokiwakai.ac.jp

Abstract Recently, kindergartens and nursery schools are facing a big problem: an increase in the number of children who require special care, called “special needs children.” A child nurse with special needs children in class needs special knowledge. Unfortunately, this is usually not the case. Corresponding to this situation, the Japanese Government has assigned a counselor who usually travels and regularly visits each nursery school. However, it is difficult for the counselors to reserve enough time to talk with child nurses because the nurses are very busy and the counselors visit two or more nursery schools a day. To resolve this problem, this paper proposes a new blog system called “Child Development Consulting Blog.” The system is a communication platform for childcare professionals through which nurses and counselors mutually exchange messages.

Key words Support System, Traveling Counseling, Child Development, Blog, Early Childhood.

1. はじめに

保育所^(注1)・幼稚園（以下、本稿では「園」と称する）の幼児教育分野では、近年、「気になる子」が増加している。気になる子とは知的発達の遅れはないものの、友達との人間関係がうまく構築できないなど、行動面での問題を抱える子どもでもある。気になる子としては、広汎性発達障害（アスペルガー症候群など）、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)などが知られている。このような子どもは、早期発見・早期対応により、健全な発達へ繋げられる場合があるとされている。

そのため、気になる子の発達を見守る保育者^(注2)には、園内における集団生活でどのように子どもに対応すれば良いかなど、高度な専門的知識が必要とされる。しかし、保育者独力でこのような状況に対応することには無理がある。そこで、心理学や医学などの専門知識を持つ相談員が定期的に園を回り、子どもの様子を分析し、保育者を支援する制度である「巡回相談」が導入された。

しかし、現実には、経費・要員数の問題もあり、十分な回数の巡回相談は行われていない。たとえ巡回相談が実施されても、その後の保育者へのケアは十分とは言えない。また、巡回相談の結果は、「発達相談記録」として園内で文書化されるべきものである。しかし、保育者業務は多忙を極めており、発達相談記録が残されることは少ない。文書として記録が残されなければ、相談内容も、相談に参加した保育者には記憶として残ることはあるかもしれないが、園の共有知識として残ることもない。管理者である園長^(注3)も、その情報を十分に把握できない。

上記問題を解決するため、本稿では、巡回相談後も保育者と相談員が意見を交換可能であり、それを基に保育が行える、巡回相談サポートシステム「子ども発達相談ブログ」を提案する。発達相談記録を入力するための入力インタフェースや園長が園全体の気になる子への対応状況を把握するための園児リスト画面など、本来のブログにはない機能も開発した。従来の手書きの記録作成では、記録者自身が記録すると他者の目に触れることはほとんどなかったが、本システムにより他者の目に触れる機会が増え、記録に対してコメントが付く。そして、コメントを基に議論が進み、保育内容を進化させながら保育を行い得る。

以下、第2章では巡回相談で用いられている既存の「発



図1 保育所における巡回相談の例

達相談記録」の問題点をまとめる。第3章では情報システムの適応性について述べる。第4章では「子ども発達相談ブログ」を提案し、第5章では開発したプロトタイプシステムについて説明する。第6章では社会実験について触れ、第7章はまとめである。

2. 研究の背景

2.1 巡回相談とその問題点

文部科学省による調査では、知能発達に遅れは見られないものの、指導上の困難を伴う気になる子は小学校・中学校段階で6.3%が該当すると言われている^(注4)。この数値に従えば、1クラス25人程度の保育所では、各クラス毎に、1名か2名、気になる子またはその前兆を持つ子どもが存在することになる。これは、著者らが行ったフィールドリサーチにおける園での状況とも合致している。

気になる子の発達支援には、心理学や医学的な専門知識が必要である。そして、その子どもの行動を理解し、園内における集団生活でどのように対応すれば良いのかを考えるなど、子どもについて多方面から考える必要性が生じる。現場の保育者、とりわけ経験の浅い保育者が、これに必要十分な知識を持つことは難しい。

このような状況の保育者への支援の一つとして、巡回相談制度が国によって導入された。心理学や医学などの専門知識を持つ相談員（臨床心理士^(注5)など）が定期的に園を回り、保育者にアドバイスを与える制度である。図1は、大阪府内のある保育所における実際の巡回相談の様子である。臨床心理士（左）が保育者（右）と面談している。このような面談を「カンファレンス」と呼ぶ。相談員が園を訪問すると、気になる子を受け持つ保育者は、

(注1)：社会福祉施設である保育所は厚生労働省が所管している。一方、教育施設である幼稚園は文部科学省が所管する。保育所については「保育園」と呼ばれることがある。厚生労働省の正式名称は保育所である。

(注2)：幼児教育分野では、幼稚園教諭と保育士を総称して「保育者」と呼ぶ。

(注3)：幼稚園長、保育所長を本稿では園長と呼ぶ。

(注4)：平成2002年2月から3月にかけて文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」による。

(注5)：心の問題の援助・解決のための専門家としての認定資格。

発達相談記録簿

氏名		年齢		性別	
保育所名		保育士		保育士	
発達相談記録簿					
子どもの様子					
カンファレンス内容					
相談員からのアドバイス					

図 2 発達相談記録の例

相談員に対して気になる子の様子を観察してもらおうよう依頼する。観察が終わると、保育者から普段の子どもの様子を聞き取りながら、相談員と保育者が今後の保育内容について検討する。この一連の流れを本稿では発達相談と呼ぶ。

毎回の発達相談の結果は、発達相談記録（簿）に記録される。発達相談記録には決まった形式があるわけではない。図 2 は実在の保育所で利用されている紙（A4）によるフォーマット例である。発達相談記録には相談対象となる子どもの様子、発達相談（カンファレンス）の内容、相談員からのアドバイスが記録される。相談後、保育者が相談の数だけ記録を作成し、園長に提出する。そして園長、主任保育者^(注6)らの確認が行われると、園内に保存される。

2.2 巡回相談の問題点

巡回相談について、大阪府近郊の 5 つの園において聞き取り調査を行った。得られた主要な問題点を以下に示す。

- 【活用されない記録】発達相談では、子どもの発達を保障するために必要な生活および保育、療育、教育上の留意点などが助言、指導される。しかも、その子どもだけに留まらず、生活環境や保護者、保育者など、その子どもに及ぼす環境、関係者へと視野を広げ、発達を保障するために必要な手立てを具体的に提示される。発達相談によって生じた内容は、今後の保育を行う上で大変重要である。しかし、現実には発達相談記録は作成されないケースが多い。作成されたとしても、単に子どもの成長記録として園に保存されるだけで、表立った問題が起こらない限り閲覧されない。

- 【巡回相談回数の不足】発達相談における訪問の頻度は、財源・要員数の問題があり、あまり多くない。回数は園によって様々であるが、年に 2 回やせいぜい 1 ヶ月

に 1 回程度に留まるそれ以外の日においても保育者が保育に不安を感じるケースは多数存在し、相談員と関わりが持つことを望んでいる。しかし、遠隔地にある園へは園に訪問するまでに時間がかかってしまうため、園の滞在時間が短くなる。新任保育者の中では、短い時間で端的にアドバイスされた助言を消化できず、取り違えた保育を行いかねないといった問題も生じている。小学校段階では、発達支援センターと連携し、支援の必要な子どもに対して教職員の意識を高める取り組みや教育支援計画の記録様式を検討などが行われている場合があるが、幼稚園・保育所ではそのような取り組みが行われている例は未だ少ない[3][4][5]。

- 【記録の交換困難性】本来、作成された発達相談記録は、相談員に見せて確認してもらったり、更にコメントを貰いたいところである。しかし、文書を相談員に送付することは容易ではない。取り扱いにとりわけ注意を要する個人情報であるためである。電話によるやり取りは、繋がらなかった場合もあり、また、記録が残らない。FAX やメールによるやり取りは、相手の都合を気にせずにやり取りを開始できるが、受信者は受け取ったデータの管理に手間が取られる。さらに、そのデータが必ず希望する受信者に届けられることは保障されていない。郵送は、やり取りの消失や情報流出も考えにくい。しかし、送信者から受信者へ届くまでに時間がかかり過ぎる。

3. 発達相談へのブログ適用と先行研究

3.1 開発基盤としてのブログ

フィールドリサーチから得られた現状の課題は、1) 重要な資料となる記録が作成後に有効活用されていない、2) 疑問や不安など、保育者が相談したいときに相談できる環境が整えられていない、の 2 点に集約される。そこで、これらを解決するための情報共有システムのベースとして、ブログ (Weblog) を選択することとした。現状の課題が、ブログの基本的な考え方により解消できるのではないかと考えたからである。

発達相談記録が作成されると管理が必要となるが、ブログでは、投入された記録は日付によって管理できる。また記録の更新状況は新着記事のお知らせ機能によって確認できる。保育者が多数居るのに対して、相談員は少数であり、このような機能がユーザにとっては大きなメリットになる。さらに Web アプリケーションであるため、インターネットでいつでもやり取りが行える。これにより、保育者と相談者は、パソコン操作によって、自身の都合に合わせた相談、返答が可能となり、継続的にやり取りが続くと考えた。

ただし、実際に設計を始めると、データ投入画面や気になる子の一覧など、ブログのデフォルト機能/既存プラグ

(注6)：園長を補佐する管理者的な保育者。

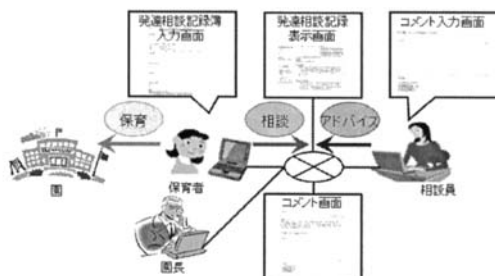


図3 子ども発達相談ブログのシステム全体像

インだけでは開発できない機能が生じ、AP(アプリケーションプログラム)としての設計が必要となった。APの基盤として、ログツールを採用した形になっている。

3.2 発達相談支援を目的とした先行研究

障がいを持った子どもさんの相談に、通信手段としてインターネットを利用しようとする研究は今までにも知られている。東北大学の渡部らは、小学生の不登校などのケースに対応するためのシステムを開発している[7]。テレビ電話によるカウンセリングなども併用した大規模な研究である。保護者が初期的な問診に答えるとアドバイスが生成され、それがつぎの人手によるカウンセリングへとつながってゆくように工夫されている。

また、気になる子を含む発達障害全般の相談にインターネットを利用する先行研究としては、中国学園大学の爲川らの研究がある[6]。保護者が予め設けてある質問に答えてゆけば、初期的な相談が自動的に可能であり、その後の電話相談への基礎資料とするシステムを開発している。かなり多数の利用者を得て社会実験も行っている。

上記既存研究のアプローチは、医師や臨床心理士へ相談を持ちかけることに躊躇しがちな保護者が、インターネットを通じて、より気軽にカウンセリングを受けられるようにしたものである。システムに一定の判断知識を持たせることにより、24時間性の確保と相談員の要員削減を図っている。これら既存研究は、極めて意義深いものと思われるが、今回のフィールドリサーチで明らかになった、保育者のスキル向上・不安の解消を目指すものではなく、発達相談の記録を蓄積して園の日頃の保育へフィードバックしようとするものでもない。

4. 「子ども発達相談ブログ」の提案

4.1 システムの利用イメージ

以上のフィールドリサーチ結果から、発達相談記録を Web 上で共有し、発達相談日から次回の発達相談日までの期間、インターネットを介してやり取りを行いながら保育を進められる、巡回相談のサポートシステムを提案

する。以下、本システムを「子ども発達相談ブログ」と称する。

図3には、子ども発達相談ブログ利用の全体の流れを示す。本システムを用いた巡回相談は以下の流れとなる。

- (1) 相談員(臨床心理士など)が園を訪問し、気になる子を観察する。
- (2) そのあとで、保育者と相談(カンファレンス)を実行して、相談者は保育者にアドバイスを与える。
- (3) 相談者が帰宅した後、保育者はその内容を発達相談記録の入力画面で記録を作成し、Web上にアップロードする。
- (4) 後日、相談員はその発達相談記録を閲覧し、内容に応じてコメントを付加し、保育者から質問がある場合はそれに返答する。
- (5) 必要であれば、上記のやりとりを継続する。

(2) そのあとで、保育者と相談（カンファレンス）を実行して、相談者は保育者にアドバイスを与える。

(3) 相談者が帰宅した後、保育者はその内容を発達相談記録の入力画面で記録を作成し、Web上にアップロードする。

(4) 後日、相談員はその発達相談記録を閲覧し、内容に応じてコメントを付加し、保育者から質問がある場合はそれに返答する。

(5) 必要であれば、上記のやりとりを継続する。

以上の流れにより、相談員は園に何度も出向くことなく園の子どもの様子を継続的に知ることができ、保育者は相談員のアドバイスを必要に応じてもらいながら保育を進めることが可能となる。また本システムの閲覧やコメント投稿は園長、主任保育者にも開放されている。園全体の様子を把握する立場である園長や主任保育者などは、現在園にいる気になる子の全体的な傾向を把握できる。

4.2 システムが持つべき機能

前述したように、気になる子は各クラスに一人程度は存在する。各保育者は、自分のクラスについては、発達相談の記録を作成できる必要がある。また、他のクラスの子どもについては、情報共有の観点から、参照は可能であるべきであるが、修正権限が与えられるべきでない。一方、園長には、園内の気になる子の全体的な状況を把握して欲しい。このような状況から、以下の基本機能が必要と判断した。

【システム基本機能】

- ① クラス毎の発達相談記録作成機能とそれに引き続く継続的な相談員・保育者間の意見交換・記録機能。
- ② 園長が、園内の全体的な状況をつかむための園児一覧機能。
- ③ 紙による発達相談記録の保存も必要であり、そのための帳票出力機能。
- ④ 扱っている情報は高度の個人情報であるため、プライバシー保護機能。
- ⑤ クラス名称、クラス担任、気になる子の登録などのシステム管理機能

② 園長が、園内の全体的な状況をつかむための園児一覽機能.

③ 紙による発達相談記録の保存も必要であり、そのための帳票出力機能。

④ 扱っている情報は高度の個人情報であるため、プライバシー保護機能。

⑤ クラス名称，クラス担任，気になる子の登録などの
システム管理機能

これら基本機能の中で、「④ プライバシー保護」については、1) 園児の氏名をシステムの中では、「YS さん」と言ったニックネームで扱い、万が一、デジタルデータで内容が流出しても、被害を最小限度に抑え、2) Web アプ

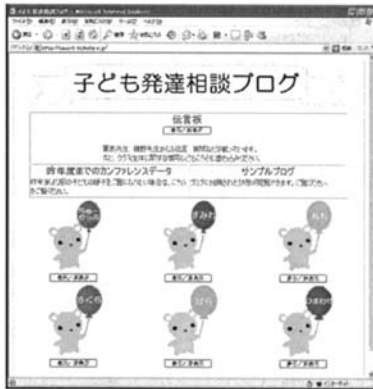


図 4 システムトップ画面（何も記入していない初期状態）

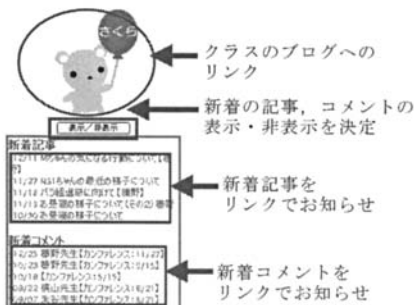


図 5 1クラス分のブログ（発達相談記録を作成した後の状態）

リケーションであるが https による運用として、パスワードを要求する、として対応することが考えられる。「⑤ 管理機能」については、ユーザ権限を細分化して、読み書き権限を細かく制御するなど、一般のアプリケーションと同様に実現できるはずである。

以上の基本機能を具備したプロトタイプシステムを Xampp [13] を用いて開発した。Blog ツールとしては、Nucleus [8], Movable Type [9], Blosxom [10] が良く知られているが、プラグインが豊富に揃い、複数のブログを運営できる Nucleus を選択した。以下、① から ③ の実現法について述べる。

5. 発達相談ブログ主要機能

5.1 各クラスごとの発達相談記録の作成

発達相談記録を作成するには、各クラス毎に記録を撮る必要がある。今回開発したプロトタイプシステムでは、図 4 に示す様に、園の各クラスに対してブログを一つずつ用意し、それらを全てシステムのトップ画面に総括した。なお、この図 4 はシステム立ち上げ時の状態を示しており、何らの書き込みもない（つまり、新着の掲示が



図 6 発達相談記録の入力画面

ない）状態を示している。

保育者はトップ画面から各クラスのブログへ移動し、記録作成を行う。保育者が書き込みを行うと、図 4 の各ブログへのリンクには、図 5 のように新着の書き込みがあることが表示される。そして、図 5 の最上部のマスコットをクリックすると各クラスの発達相談記録の画面に移る。即ち、トップ画面（図 4）は単なる Web ページではなく、ポータルになっている。これにより、各クラスのブログを一箇所に収集し、相談が行われた子どものデータを共有できるように配慮した。また、各クラスのブログに移動せずに新着記事、新着コメントの有無が確認できる。

各クラス毎に設けられたブログにおいては、保育者は、最初に相談員との記録を書き込むことになる。この入力画面は、通常のブログの機能のみでは構築できなかった。図 2 を参考に、図 6 に示す入力画面を開発した。入力項目には「相談内容のタイトル」「発達相談が行われた日」「記録者」「参加者」などの基本的なデータ、そして「子どもの様子」「カンファレンスの内容」「保護者対応」「保育活動での留意点」がある。保育者はこれらの項目に沿って発達相談の内容を記録していく。そして全ての項目に対して入力を終え、投稿ボタンをクリックすると入力データがシステム上に投稿される。完全に自由な記述ではなく、項目を設けることによって、保育者が何を書けばよいかを意識させている。

図 6 によって面談内容が記録されると、それに続いて、保育者も相談員も、自由に対話的にコメントを入力できる。これによって、図 7 のような画面が各クラスごとに生成される。これによって、相談者と保育者は、インターネットを通じて、巡回相談後も連絡を交わすことが可能になる。

5.2 園長が園内の状況をつかむための機能

園長、主任保育者は、園内のすべての気になる子の状



図 7 各クラスの発達相談記録の表示画面

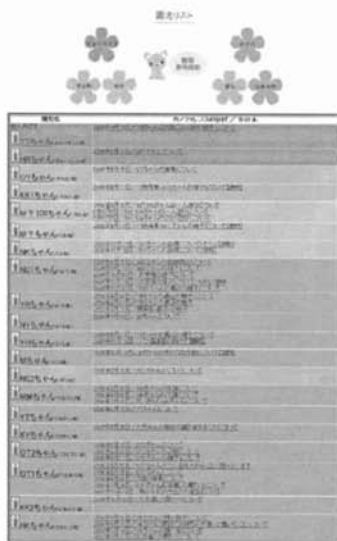


図 8 園児リストの画面

況をつかむことを要求される。そこで、本システムでは、図 8 のように、気になる子の一覧と、新着情報を一覧で表示される画面を設けた。左側に発達相談の行われた子どもの名前が表示され、その右側に各子どもの発達相談記録がリストアップされる。各リストは発達相談が行われた日とタイトルで構成され、各発達相談記録にリンクしている。また、園長はこの画面から、子どものデータ



図 9 PDF ファイル表示画面

を追加できる。

5.3 帳票出力機能

システム上にアップロードされた発達相談記録は、第三者評価のためなどに備えて、紙形式で保存する必要がある。各発達相談記録の PDF ファイル表示画面へのリンクボタンをクリックすると、PDF ファイルに変換された記入済みの発達相談記録が生成される (図 9)。システム上での発達相談記録の記録が完了すると、保育者は図 9 を印刷し、園長に提出する。園長、主任保育者が内容確認をし、子どもの発達記録の一つとして園内に保存される。今回は PDF 画面の開発にあたり、FPDF [11] を利用した。PHP [12] を用いて PDF ファイルを動的に生成できる。

6. システムの社会実験を通じた評価

開発したプロトタイプシステムを利用して、保育所で実業務に適用する社会実験を実施した。実際の社会実験の環境は以下の通りである。システムの利用頻度がそう多くないため、実施期間として、2 年間近い長期にわたる社会実験を設定した。

協力園:大阪府内の A 保育所

参加者:園長、主任保育者、保育士 (6 名)、相談員 (1 名、臨床心理士)

期間:2005 年 1 月から 2007 年 3 月

評価に際しては、1) そもそもこのシステムが利用されたのか、2) 利用したメリットが保育者にあったのか、に焦点を絞った。また、今回開発したプロトタイプシステムのユーザインタフェースの評価も行った。以下、それぞれの評価結果について述べる。

6.1 システムの利用頻度

最初に、どの程度利用されたかを分析した。表 1 は、2005 年 4 月から 12 月における、発達相談記録とコメン

表 1 発達記録の作成とコメント投稿回数

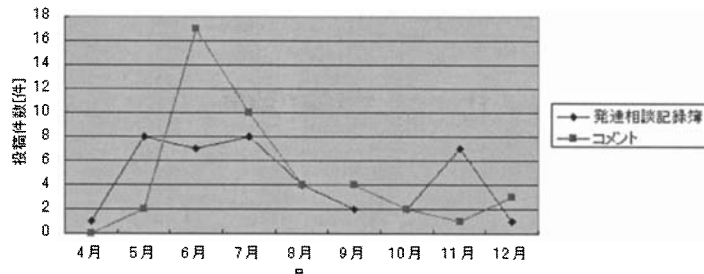


表 2 現状の入力フォーマットへの評価結果

	記録1	記録2	記録3	記録4	記録5	記録6	記録7	記録8	記録9	記録10	合計	100点換算
基準①	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10	20
基準②	3	2	3	4	2	4	3	4	4	2	31	62
基準③	2	3	3	4	2	5	5	4	5	3	36	72
基準④	4	3	4	3	4	3	4	4	5	2	36	72
基準⑤	1	1	1	1	1	1	1	4	3	1	15	30

トの投稿件数である。これより前（2005年1月から2005年3月まで）、システムを用いずに発達相談を行ったところ、発達相談記録が作成された回数は、2、3回であった。それに比べ、2005年4月からは頻繁に利用されている。これはシステムの有効性を園長が認識し、システムを用いて記録することが保育士の業務の一つになったこととも関連している。しかし、第三者評価への対応があり、今後は、以前のようにまったく記録を残さないとの選択肢は無い様に思われる。

発達相談を行った場合には、記録は必ず作成された。発達相談日以外にコメント機能を通してやり取りされたコメント数は35件であり、平均して約9日に1回の割合である。最もコメント投稿数が多い保育者に絞ると、約6日に1回の割合でやり取りしていた。一方、相談員から投稿されたコメントは約9日に1回の割合であった。また、保育が始まった4月から6月にかけては相談件数、コメント数ともに増加傾向にある。これは子どもが新しいクラスに馴染むまで、友達とのかかわりにおける相談内容が多かったことに関連している。6月以降は投稿件数が下降している。ただし、11月に入ると増加率は小さいが投稿件数は増加している。これは、最年長クラスにおいて小学校入学に向けた相談が行われたことに関連している。

6.2 システムの導入効果

導入効果を明らかにするため、保育者にヒアリングを実施した。保育者からは、以下のような肯定的な感想を得た。

- 相談員とのやり取りする回数が増え、保育を行う上で助けられたと実感する^(注7)。

- 保育を通して子どもとのかかわり方がわかった。
- 今後の保育の目標がわかり、どのような活動を取り入れたらいいかがわかった。
- 保育者自身の保育について考えを深める機会になった。
- 子どもについて職員間の共通理解が進み、職員間で協力して保育を行うようになった。

以上の中には、発達相談自体の効果が含まれている。しかし、情報交換回数の増加や職員間の情報共有の効果を明確に保育者自身が感じている。ただし、保育士、相談員双方のヒアリングでは、記録の内容に関わらず、内容の文章化が困難であるとの意見を得た。とりわけ、相談員はコメントを書く際に、書いては見直すという作業を幾度も繰り返す、平均して約20分の時間を要していた。これは、システム上で閲覧される文章が、保育士や園長にとってより見やすく、伝えやすいものにしようという熟考が相談員に要求されているためと思われる。

6.2.1 インタフェース画面への評価

プロトタイプシステムのインタフェース自体を評価するため、4段階評価によって回答を求めるアンケートを実施した[16][17]。システムの画面構成、使いやすさについては全体的に高い評価を得、アンケートではどの画面においても「とても使いやすい(16%)」「使いやすい(68%)」という意見を得た。トップ画面においては、各クラスの発達相談記録が総括されており、見やすく、使いやすいという意見を得、アンケートでは「とても使いやすい(40%)」「使いやすい(60%)」という結果であった。一般にインタフェース画面は好評であった。

て不安を感じた保育者が、本システムを利用して相談者に相談を持ちかけるようなケースがあった。従来の紙による記録・交換では、対応のすべが無いケースである。

(注7)：たとえば、「お泊り保育」直前になって、気になる子の対応につい

6.2.2 発達相談記録入力画面の評価

社会実験を重ねる中で、相談員から、かならずしも記録内容が適切ではないとの指摘があった。そこで、保育士が作成した記録の中からランダムに10件選択し、臨床心理士である相談員が評価した。評価方法としては、以下に示した「基準」に基づき、点数(5点満点)をつけた。

基準① 子どもの過去の様子を確認できるように書かれていること。

基準② 記録者だけではなく、他者が見ても伝わるように書かれていること。

基準③ 過去や現状を見直すことで今後の保育方法に繋げられるように書かれていること。

基準④ 今後の保育に、よりしっかりした目的を持って取り組めるように書かれていること。

基準⑤ 子どもの日々の変化を見られるように書かれていること。

評価結果を表2に示す。例えば、記録9を見ると、基準③と④において評価5であるが、基準①においては評価1である。記録1から10で、全基準において高い評価を得た記録はない。基準ごとに採点結果(100点換算)を見ると、基準③と④については約70点、基準①と⑤については約25点と大きな差がある。基準①や⑤などの「それまでの子どもの様子や日々の様子」は、その子どもの担任であり保育者にとってみれば、把握している内容であるためわざわざ記録に残す必要はない。一方、基準③や④などの「今後の保育方法」については、保育者の目標となるため各保育者とも記録していると考えられる。

保育者の視点での記録作成を考えると、上記の傾向が生じることは自然である。しかし、共有知識として記録を残していく上では「対象となっている子どもについて事前情報をもたない保育者が閲覧してもわかること」が必須条件となる。そのため記録を作成する際には、(1)子どものそれまでの様子(2)どのような対応をすべきかの双方の視点がきちんと記録されていなければならない。言い変えると、図2の記入項目は、デジタルフォーマットで保育者・園長・相談者・医師などが連携して、保育者を支援するためには、必ずしも十分とは言えない。相談員にも十分な情報が得られる入力インタフェースの実現は、今後の検討課題である。

7. おわりに

2年間近い、実社会での評価実験によって、本提案のシステムが、発達相談の内容を記録して、さらに議論を深めるためのツールとして有効であることが確認できた。

本システムは巡回相談をサポートするシステムとして提案したがそれに加え、保育者養成にも結びつく可能性

がある。それは本システムの利用により、記録者だけの見解を基に記録が作成されるのではなく、他者の見解を含め、様々な視点から保育を考えられ、それを記録できるためである。また、将来的には本システムがより広い範囲の複数の園で導入されると、自園だけではなく、他園の保育者の記録やそれを通したやり取りが閲覧できると考える。

上記のように複数の園に導入された場合には、その情報を、そのまま小学校における気になる子の発達支援に生かすことも考えられる。個人情報の保護との関係は議論する必要があると思われるが、幼稚園・保育所における気になる子の状況が具体的に小学校段階に伝えることができれば、発達指導の一助になるものと思われる。

文 献

- [1] 小田豊, 神長美津子:「保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 指導計画法」, 北大路書房, 2003年
- [2] 日本保育協会, 調査研究報告,「保育に活かす記録—保育所保育業務の効率化に関する調査研究—」, <http://www.nippo.or.jp/cyosa/01/01.ta.html>
- [3] 全日本特別支援教育研究連盟(編):「特別支援教育研究第586号6月号(発達相談支援センターとの連携による子ども保護者への支援の取り組み)」, 日本文化科学社, 2006年
- [4] 全日本特別支援教育研究連盟(編):「特別支援教育研究第586号6月号(地域生活を支える個別的教育支援計画)」, 日本文化科学社, 2006年
- [5] 全日本特別支援教育研究連盟(編):「発達の遅れと教育第583号3月号(子どもの情報を収集しよう—学校が自ら取り組める情報収集—)」, 日本文化科学社, 2006年
- [6] 爲川雄二, 世木秀明, 橋本創一, 林安紀子, 池田一成, 菅野敦「インターネット環境を利用した発達障害相談システムの開発と試験運用」信学技報ET2002-91, pp.41-46, 2002年
- [7] 渡部信一, 熊井正之, 曾根秀明, 比屋根一雄, 飯尾淳, 菅井邦明,「ネットワークを利用した不登校児・障害児支援システムの開発」日本教育工学会論文誌, Vol.26, No.1, pp.11-20, 2002年
- [8] Nucleus ホームページ: <http://japan.nucleuscms.org/>
- [9] Movable Type ホームページ: <http://www.sixapart.jp/movabletype/mt3/>
- [10] Bloxom ホームページ: <http://bloxom.info/>
- [11] FPDF ホーム, <http://fpdf.japansite.net/>
- [12] 廣川類, 桑村潤,「PHP5 徹底攻略エキスパート編」, ソフトバンクパブリッシング, 2005年
- [13] apache friends - xampp: <http://www.apachefriends.org/en/xampp.html>
- [14] 株式会社カグヤ, 子育て支援ソフト「見守りほいく」, <http://www.caguya.com/about/index.html>
- [15] SYSMEX 株式会社, ビーカブック, <http://peekabook.jp/what/what.html>
- [16] 酒井隆,「アンケート調査の進め方」, 日本経済新聞社, 2001年
- [17] 内田治, 醍醐朝美,「実践アンケート調査入門」, 日本経済新聞社, 2001年
- [18] 井上明, 金田重郎,「実システム開発を通じた社会連携型PBLの提案と実践」, 情報処理学会, 情報システムと社会環境研究会, 2007年3月。